

5月7日(火)

貴重な香油

聖書朗読 ヨハネ 12:1~11

愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしい香りをおささげになりました。

エペソ 5:1~2

イエス様と計りがたいほど多くの時間を過ごした二人の人物が、なぜ全く異なる者となったのでしょうか。イエス様も彼らをご覧になり、同じように感じておられたのではないのでしょうか。その二人とは、ラザロの姉妹であるマリヤと、弟子であったユダです。

イエス様は、ある晩ベタニヤのある家で行われる晩餐に行かれました。弟子たちの何人かもいっしょに集っていました。マリヤは、イエス様に心からの愛をもって仕え、非常に高価な香油をイエス様の足に塗り、献身的な姿勢を示しました。こうすることは、マリヤが思いつく、主への最高の捧げ物だったのです。これを見たユダは、この行為をまったくの無駄だと非難するのです。「なぜこの愚かな女はイエスに、それほどのお金を費やすのか」と問うのです。マリヤとユダの救い主に対する態度は、どうしてこれほどまでに異なるのでしょうか。

なぜユダは、それまでにイエス様のなされた数多くの奇跡を見てきたにもかかわらず、イエス様にこうも背くことができたのでしょうか。私たちには信じられないと思うかもしれませんが、今の時代も、様々な誘惑によって、主であり救い主であるお方への信仰から離れてしまっている人が多くいるのではないのでしょうか。マリヤは、イエス様に自分の愛を示そうと、持っているものから出来る限りのものを喜んで差し出した忠実なしもべであり続けた人物の一人でしょう。今がそのときです。すべてをイエス様に差し出しましょう。どれだけの犠牲を払っても。

讚美歌 391

祈り 您在天のお父様。私たちがクリスチャンとしての歩みから逸れてしまう度に、あなた様がお示しくださる御愛を感謝します。この世の誘惑に打ち勝ち強さと、あなた様に仕えるために何を捧げられるかを見極める目をお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ヤン・ポー・マッセイ
テキサス州 ヒューストン

5月8日(水)

どのイエス様がよい？

聖書朗読 ヨハネ 12:20~36

わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。
ヨハネ 12:32

多くの人を引き寄せることはそう難しくはないかもしれません。学校で勝利を収めたチームとか、お店でのお買い得品とか。人を引き寄せるだけなら容易ですが、興味を持ち続けてもらうのは難しいのではないのでしょうか。ゲームを観戦している人は、自分の応援するチームが負けてしまったら帰ってしまうでしょうし、お店のお買い得品がなくなってしまうたら、お客は帰ってしまうでしょう。イエス様の周りに寄ってきた群衆もそのようなものでした。

イスラエルの民は戦いに負けてばかりで意気消沈していました。バビロン、ペルシャ、ギリシャによる征服。イエス様が現れたとき、民は、ローマを征服してくださる方に違いないと思ったことでしょうか。このゲームをみすみすみ見逃す人がいるのでしょうか。様々な奇跡と癒し、大勢の人への給食といった出来事により、多くの民がイエス様に期待を寄せていました。イエス様は、皆で担ぎ上げるのに非常に魅力的な存在だったのです。それは、私たちの望むものを与えてくれるイエス、望むことを言ってくれるイエス。それは、私たちの最も望むイエス様像です。人気者のイエス。けれども、それはイエス様の本来の御姿ではありません。

イエス様は、地上から上げられることを最も気にかけておられました。『わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。』けれども、ここで言われた「上げられる」とは、十字架を意味するものでした。そうだとすると、決して敗者に勝利を与えるものでも、何か好条件の契約とも言えないように思えます。けれども実際は偉大なる勝利であり、最高のご契約なのです。そして、私たちがイエス様に目を向けるとき、それは私たちが求める命をお与えになる神ではなく、自らの命を私たちにお与えになろうとする神の御姿なのです。私たちはそこから離れ去ってしまうような群集とはなりたくはないでしょう。

讚美歌 285

祈り 親愛なる主よ。私たちは、世の人々が望む救い主像に引き寄せられる誘惑に遭うことがあります。どうか地上から上げられたキリストにさらに私たちを近づけ、他の人々がそれを見てあなた様に近づくことが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デイビッド・ラングフォード
テキサス州 ラボック

5月9日(木)

慌ててする約束

聖書朗読 ヨハネ 13:31~38

イエスは答えられた。「わたしのためにはいのちも捨てる、と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」
ヨハネ 13:38

人間というのは、困難な状況に直面すると、神様と慌てて約束をして、事態を良くしてもらおうとすることがあるのではないのでしょうか。神様の助けを切に願って求め、これからはもっと信仰的な生き方をしますと約束するでしょう。そのときは、心からその約束を守ろうと思っているのですが、困難を乗り越えて暫くすると、いつもの生活に戻ってしまうのではないのでしょうか。神様との約束などすっかり忘れて。

イエス様は弟子らと多くの時間を過ごされました。特に十字架に架けられる日が近づいていたころ。イエス様は、弟子らにご自身と一緒にいくことは出来ないが、後についてくることができるとおっしゃっています。

ペテロはこう言います。『主よ。なぜ今はあなたについて行くことができないのですか。あなたのためにはいのちも捨てます。』ペテロはこのとき、自分は自らの命をお捧げするほどイエス様を心から愛していると思っていたのですが、後にイエス様の弟子ではないかと尋ねられ、自ら危機にさらされる場面でこう答えています。『そんな者ではない。』(ヨハネ18:17)。

人生は、約束事を破ってばかりいるのではないのでしょうか。究極の危機にさらされるとき、私たちはかつて良い志をもってした約束であっても破ってしまうかもしれません。大切なのは、揺るがないこと、信頼すること、そして、忠実であることです。ペテロはピンチに陥ったとき約束を放棄し、破ってしまったのです。

主は私たちとの約束を決して破られることはありません。私たちが主と、周囲の人との約束を守り通すことができますように。

讃美歌 243

祈り 親愛なる主よ。どうか私たちが約束をする前に慎重に考えることができるように、そして、私たちがする約束をすべて全うする強さをお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スー・レータム

カリフォルニア州 アンテロープ

5月10日(金)

実を結ぶ

聖書朗読 ヨハネ 15:1~17

人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。
ヨハネ 15:5

私が大人になるにつれ、家族は私を「働き蜂」と呼ぶようになりました。何かやるべき仕事を与えられると、たいてい良く出来たものです。歳を取るにつれ、私は自分の成し遂げた成果によって、自らの価値を測るようになり、その結果、私の心は、自らの成果によってのみ自分の価値を図る偽りの判断基準に、徐々に疲れてしまいました。成功を収めると、神様や周囲の人から思いが離れ、成功する度ごとにますます疲れていきました。神様のために何かをするということは、必ずしも成功を収めることではないのです。私は神様と共に歩み、神様のうちにあり、イエス様の命を受け取り、主が実を結んでくださると信じることを学びました。

実を結ぶことは、あくせくすることではないのです。樹木は働くことをしなくても実を結び、ただ立って水と土中の養分を吸収し、日の光を浴びているだけで、自然に実を結ぶものです。人も同じなのではないのでしょうか。私たちは本来、生産的な存在として創られており、つまり、それはまさしく、ぶどうの木につながっているときに、何かを生み出すということなのです。

主はぶどうの木、私たちは枝です。私たちが主にとどまっていれば、主との関わりと主への信頼によって、私たちは実を結ぶのです。「主から離れては、何も出来ない」のです。永遠に続く価値は他にはないのです。神様と真の関わりを持ち、神様と繋がり続け、永遠に結ぶ実を経験してみましょう。

讃美歌 339

祈り イエス様。あなた様はぶどうの木、私たちに欠かすことの出来ない命です。どうか私たちが、あなた様のうちにあるよう導いてください。あなた様のうちにあつて、永遠に続く実を経験し他人とシェアすることができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジル・マブリー・マウディー

テキサス州 プレインビュー

5月11日(土)

漂い離れ去る

聖書朗読 ヨハネ 15:18~27

もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。 ヨハネ 15:22

子どもの頃のことになりますが、私が年下の従弟と、祖母の家の前の小川で遊んでいた時のことです。私たちは小川に沿って次第に下流に下っていき、彼の母親の視界から見えない所まで行ってしまいました。

叔母は、心臓が止まるかと思ったと、狂ったように叫びながら、小川を下ってきて、私を厳しく叱りました。けれども、彼女の息子である従弟には、手を上げることもなく、ただ泣きながら、彼を抱きしめていたのです。

「何で彼は叩かれたいんだよ。私は涙目で叔母に訴えました。すると彼女は、「だってあなたは分かっていたことですよ。息子はまだ小さくて何も分からないのよ」と答えました。確かに、私は叔母の目の届く範囲に留まっていたべきだと分かっていたにも関わらず、それを忘れて離れて行ってしまったのです。

「知る」ということには「責任」が伴います。私はイエス様に従うべきことをよく知っています。イエス様は今日の聖書箇所では、はっきりとこうおっしゃっています。「一度主を知ったなら、従わないことへの弁解の余地はない」と。それは、時に重荷と感ずることもありますが、同時に喜びなのです。主は、私たちが主に従うことを信じて下さっているのです。

私たちは知っているにも関わらず、そこから離れてしまいがちです。イエス様に仕えることから気がそれて、この世のものに目が行きがちです。私たちは自らの生き方によって、この世に属するものではないことを示していかなければなりません。

讃美歌 第二編 3

祈り 全能なる神様。私たちは、周囲の人にイエス様を示すことによって、あなた様に熱心に仕え続けることを約束します。どうかこの世にあって、あなた様が私たちにお示し下さる御愛を他の人に伝える者とならせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ランティア・ブラッドリー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス

5月12日(日)

たとえ話と現実

聖書朗読 ヨハネ 16:25~33

わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。 ヨハネ 14:6

私たちは、事実を明確にそのまま伝えてもらうことを好む場合が多いでしょう。けれども、イエス様は、この世に来られたとき、あえてたとえ話で語られたのですが、そのことについてこうおっしゃっています。『わたしが彼らにたとえて話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。』(マタイ13:13)。ヨハネ16章でイエス様は、父について、たとえ話ではなく事実をそのまま語る時が来るとおっしゃっています。そのとき弟子らは、「実に、事実をそのまま語っておられる」と喜ぶことでしょう。けれども、その時はまだ来ていないので、事実をそのまま語っても、彼らは真実を本当の意味で理解出来ていないにもかかわらず、分かったつもりになっただけでしょう。

イエス様はそこで彼らの見せかけの自信を打ち砕くのです。「あなたがたは信じますか。彼らには、イエス様がこの世を去り、父のみもとへ行かれるということの意味が分かりませんでした。イエス様が、「弟子らがわたしを捨て、散り散りになり、迫害を受けることになる」とおっしゃったとき、彼らは驚愕しました。彼らには真実が理解できなかったのです。

たとえ話も事実をそのまま述べることも、どちらも真理を伝えるものでした。ヨハネ16:26~27では、『あなたがたはわたしの名によって求めるのです。・・・父ご自身があなたがたを愛しておられるからです。』とあり、ヨハネ16:33では、『わたしにあって平安を持つ』とあります。神様は私たちを引き寄せてくださり、それにより私たちは真理を知ることとなるのです。

讃美歌 525

祈り 父よ。日々もつと私たちがあなた様に思いを向け、あなた様の御業を通して、あなた様のご臨在という真理を見ることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

カール・F・フリン
テキサス州 ウェイク